

宮城聡×SPAC 夢幻能『オセロー』

6 月 | ヴェネツィア・ビエンナーレ演劇部門のオープニングにて上演!!

7 月 | 韓国・居昌国際演劇祭へのツアーも決定!

この度、SPAC-静岡県舞台芸術センターは、宮城聡が演出する「夢幻能『オセロー』 (Mugen Noh Othello)」を、6 月 7・8 日ヴェネツィア・ビエンナーレ(イタリア)演劇部門のオープニング作品として上演いたします。

ヴェネツィア・ビエンナーレは 1895 年から始まる世界で最も長い歴史を有し、今も最大の注目を集める国際美術展です。その演劇部門は第 54 回を迎え、俳優で芸術監督を務めるウィレム・デフォーのディレクションによる「Alter Native」をテーマに、6 月 7 日から 21 日まで開催されます。

宮城は「夢幻能」の形式により、シェイクスピア四大悲劇の一つである『オセロー』を、殺されたデズデモナの亡霊が演じる痛切な「愛の物語」へと昇華させました。本作は、比較文化史の大家・平川祐弘氏が「夢幻能」を『オセロー』を題材に考察した論文に端を発し、宮城が平川氏に謡曲台本の執筆を依頼。2005 年に東京国立博物館で初演、2018 年にはニューヨークのジャパン・ソサエティと静岡芸術劇場で上演されました。(静岡上演時のタイトル:「ミヤギ能『オセロー ～夢幻の愛～』」)

宮城演出の代名詞である「二人一役」の手法と、俳優たちによる力強いパーカッションの生演奏に彩られた「鎮魂のための祝祭劇」。ヴェネチアを舞台とした幽玄の舞台が、世界屈指の国際美術展でヨーロッパ・プレミアを迎えます。



"Mugen Noh Othello" ©K.Miura

▶ 5 月 26 日(火)・27 日(水) 稽古見学会を開催 静岡芸術劇場にて

ツアーに向けた稽古の見学会を実施いたします。ぜひご取材ください。

お問い合わせ SPAC-静岡県舞台芸術センター TEL : 054-203-5730 E-mail : koho@spac.or.jp

演出ノート(2018 年)より：

黒い肌の傭兵将軍と、ヴェネツィア貴族の娘の、あまりにも純粋な恋。

愛情こそが肌の色と年齢と宗教の壁を超える・・・この完全すぎるカップルが、猜疑と嫉妬の修羅場へと転落してゆくさまを描く『オセロー』は、シェイクスピア四大悲劇のうちでも最もダイレクトな「愛の物語」です。

この美しくも残酷な戯曲を、平川祐弘は、オセローに殺された妻デズデモナの霊が思い出を生き続けているという設定で、能の台本に書き直しました。それによって生まれたのは、目をそむけたくなる嫉妬を観客に突きつけてくる原作とは趣を一変

させた幽玄な世界です。不貞を疑われ、その誤解からオセローに首を絞められたデズデモーナが、しかし、その殺しの瞬間にこそ最もオセローと近づいていた、この男と女のパラドクス。その一瞬こそが人生で最も大切な時間となり、デズデモーナの霊はその一瞬に支えられて存在し続けているのです。

愛情というものをその破綻の側からとらえ返したとき立ちあらわれる希望。愛情への希望がおしなべて冷笑される時代に、こうして希望はよみがえり、見るものを襲うのです。

1990 年以来われわれが一貫して探求してきた“言動分離”の手法、そして俳優たちによる強靱なパーカッション。人間が言葉と肉体に引き裂かれる現代でこそ生まれ得たこの方法によって、「鎮魂のための祝祭」という演劇の淵源が、いま目の前にパッキリと口を開けて皆様をお待ちします。

宮城聡

〈開催概要〉

La Biennale di Venezia

BIENNALE TEATRO 2026

54th International Theatre Festival

SATOSHI MIYAGI -

Mugen Noh Othello

ヴェネツィア・ビエンナーレ

演劇部門 2026

宮城聡 夢幻能『オセロー』

会期：2026 年 6 月 7 日(日)20:00・8 日(月)19:00

会場：Teatro Piccolo Arsenale

演出：宮城聡

原作：ウィリアム・シェイクスピア（小田島雄志訳による）

謡曲台本：平川祐弘

音楽：棚川寛子

空間構成：田中友章 | 照明デザイン：大迫浩二 | 衣裳デザイン：高橋佳代

音響デザイン：澤田百希乃 | ヘアメイクデザイン：梶田キョウコ | 美術：深沢襟

出演：SPAC-静岡県舞台芸術センター

美加理、阿部一徳、池田真紀子、大内米治、春日井一平、加藤幸夫、木内琴子、桜内結う、大道無門優也

寺内亜矢子、ながいさやこ、布施安寿香*（韓国公演は榊原有美）、本多麻紀、山本実幸、吉植莊一郎

助成：国際交流基金

製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター



JAPAN FOUNDATION
国際交流基金

▶ ヴェネツィア公演以降の上演予定： 8 月 1 日(土)、2 日(日) ^{コチヤン} 居昌国際演劇祭（韓国）

■ 宮城聡 Miyagi Satoshi

演出家。1959 年東京都生まれ。東京大で演劇論を学び、90 年にク・ナウカ旗揚げ。2007 年に SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督に就任。自作の上演とともに世界各地から現代社会を鋭く切り取る作品を紹介、また中高生鑑賞事業や SPAC 演劇アカデミーなどの育成活動にも力を注ぐ。代表作に『王女メデア』『マハーバーラタ』『アンティゴネ』など。近年はベルリン国立歌劇場などでオペラの演出も手がける。19 年芸術文化勲章シュバリエ受章。23 年にグランシップ館長就任。25 年 7 月、対談集『演劇脳とビジネス脳』（西村真里子編）を出版。



Photo by Kato Takashi

■ SPAC(Shizuoka Performing Arts Center)

公益財団法人静岡県舞台芸術センター(Shizuoka Performing Arts Center: ^{SPAC})は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997 年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007 年より宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。2025 年に設立 30 周年を迎え演劇を通して磨き上げてきた「人」と「技術」を、企業やコミュニティと連携しながら、福祉・観光・人材育成など地域の活性に活用するべく活動を発展させています。